

北海道型IRの基本コンセプトについて (検討資料)

第1回 特定複合観光施設（IR）に関する有識者懇談会

平成30年7月31日

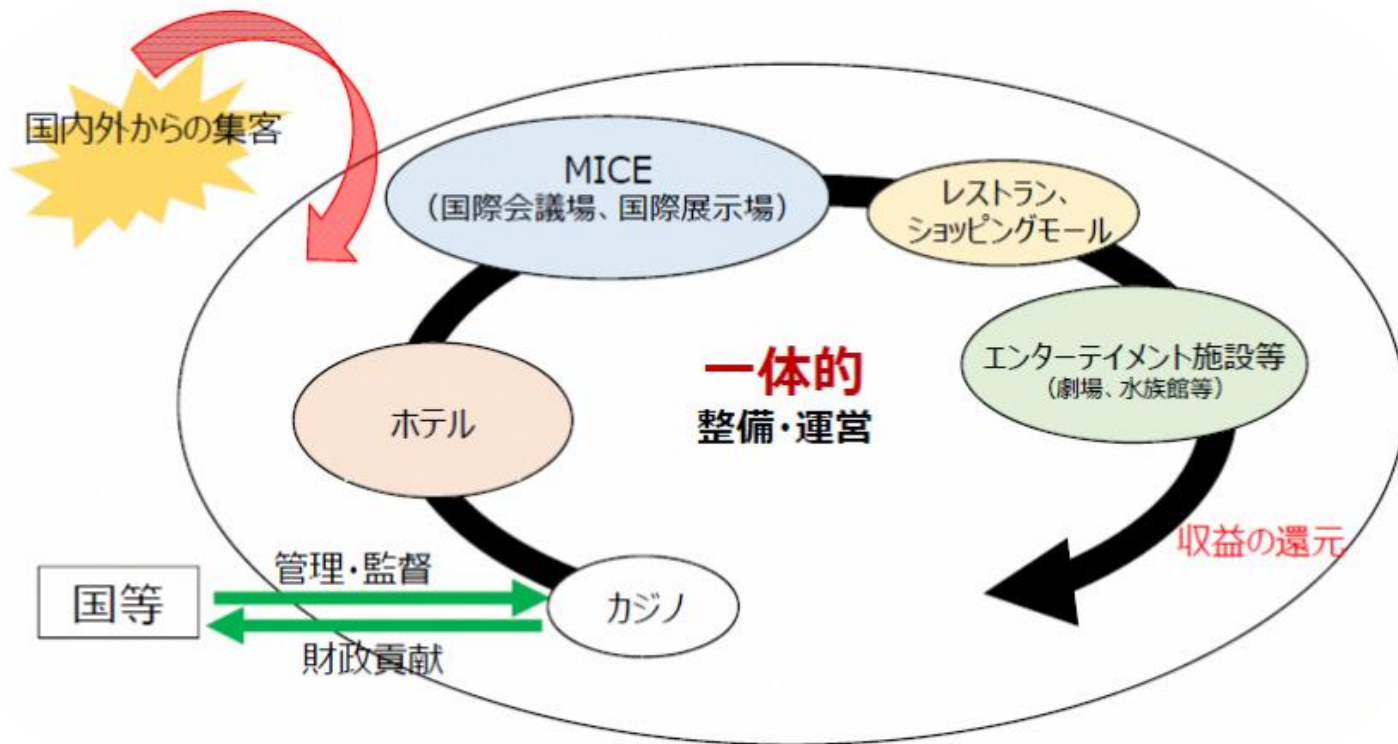
北海道経済部観光局

1 IR導入の意義①

- IRとは何か、日本型IRが目指すものは何か。
- 諸外国において、どのようなIRが展開されているか。

◆ IRとは

- IR（Integrated Resort：統合型リゾート）＝カジノ施設と観光振興に寄与する諸施設が一体となっている施設群
- カジノの収益により、大規模な投資を伴う施設全体の採算性を確保
- 民間事業者の投資による、集客及び収益を通じた観光地域振興、新たな財政への貢献



1 IR導入の意義②

◆ 国が目指す日本型IRとは

公共政策としての「日本型IR」とは

「特定複合観光施設」を一体として構成すべき中核施設を以下の機能を有するものと整理。これらの機能を有する施設は、それぞれ我が国を代表する施設として **IR区域内にカジノ収益を活用し整備され、国際競争力の高い滞在型観光の実現**を目指す。これによって、**2030年に、訪日外国人旅行者数について6,000万人、旅行消費額について15兆円**を目指す等の**公共政策の実現を強力に後押し**する。



上記の**中核施設**の**具体的内容及びその他の施設の種類・コンテンツ**については、**民間事業者の資金・自由な発想**を活かし、**より魅力的、かつ、高い経済効果を有する施設の整備・運営**を実現

1 IR導入の意義③

◆ 諸外国におけるIRの展開例



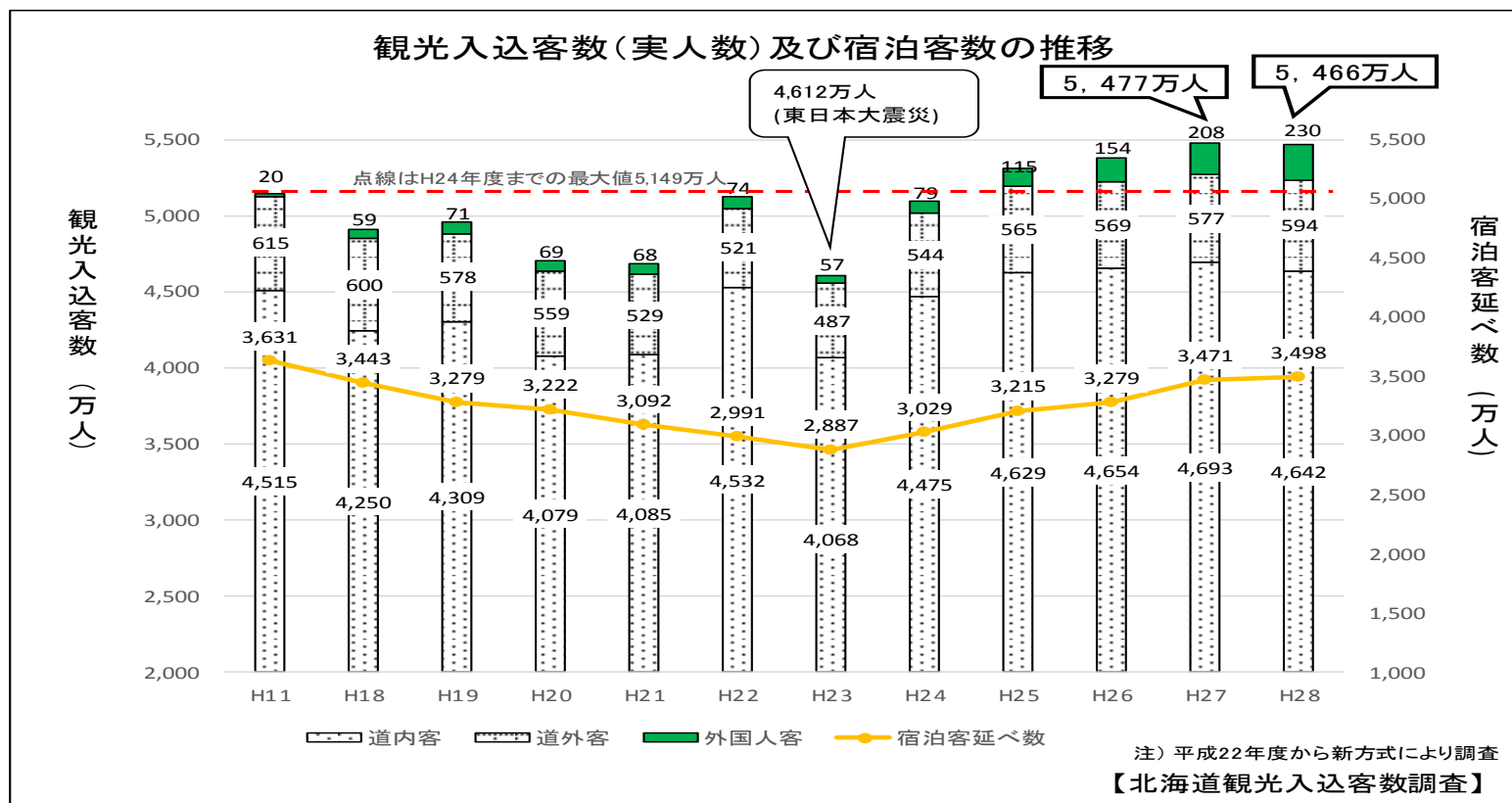
	マリナ・ベイ・サンズ (シンガポール)	リゾート・ワールド・セントーサ (シンガポール)	マンダレイベイ (ラスベガス)	ザ・ヴェネチアン・マカオ (マカオ)
特徴	地上57階にある世界最大の屋上プールが有名	ユニバーサル・スタジオ・や世界最大級の水族館「シー・アクアリウム」併設	MICE顧客をターゲットにしている大型 I R	ヴェネチアをテーマに広場や運河を再現
開業年	2010年	2010年	1999年	2007年
開発費用	4,870億円	5,220億円	1,130億円	2,800億円
敷地面積	19万㎡	49万㎡	50万㎡	29万㎡
延床面積	60万㎡	34万㎡	48万㎡	98万㎡
施設概要				
カジノ	1.5万㎡	1.5万㎡	1.3万㎡	3,5万㎡
ホテル	2,561室	1,600室	4,752室	2,900室
会議室	最大 8,000人収容 (7,672㎡)	最大 6,500人収容	最大 12,000人収容	最大 7,248人収容 (6,577㎡)
展示場	最大1,7万㎡	最大 3,000人収容	ホール・ルーム 4つ	最大1.5万㎡
その他	飲食・ショッピング 7万㎡ 劇場、博物館、スカイパーク、スケート場、ナイトクラブ 等	ユニバーサルスタジオ、博物館、水族館、プール等	イベントセンター、飲食・ショッピング施設、劇場、ナイトクラブ、水族館、プール、結婚式場等	飲食・ショッピング施設、劇場、アリーナ、プール、パターゴルフ場、ナイトクラブ 等

2 IR導入の効果①

- IRを導入した場合、本道観光の現状や課題に対し、どのような効果をもたらすことが可能か。

① 国内外からの観光客の受入れ拡大

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
インバウンドは堅調に増加しているが、国内客は横ばい状況	<ul style="list-style-type: none"> 海外・国内における旅行市場の新規開拓・拡大 国内における観光地との競争力強化等 	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表し、北海道の象徴となる新たな観光資源（キラコンテンツ）の創出により観光需要を飛躍的に拡大



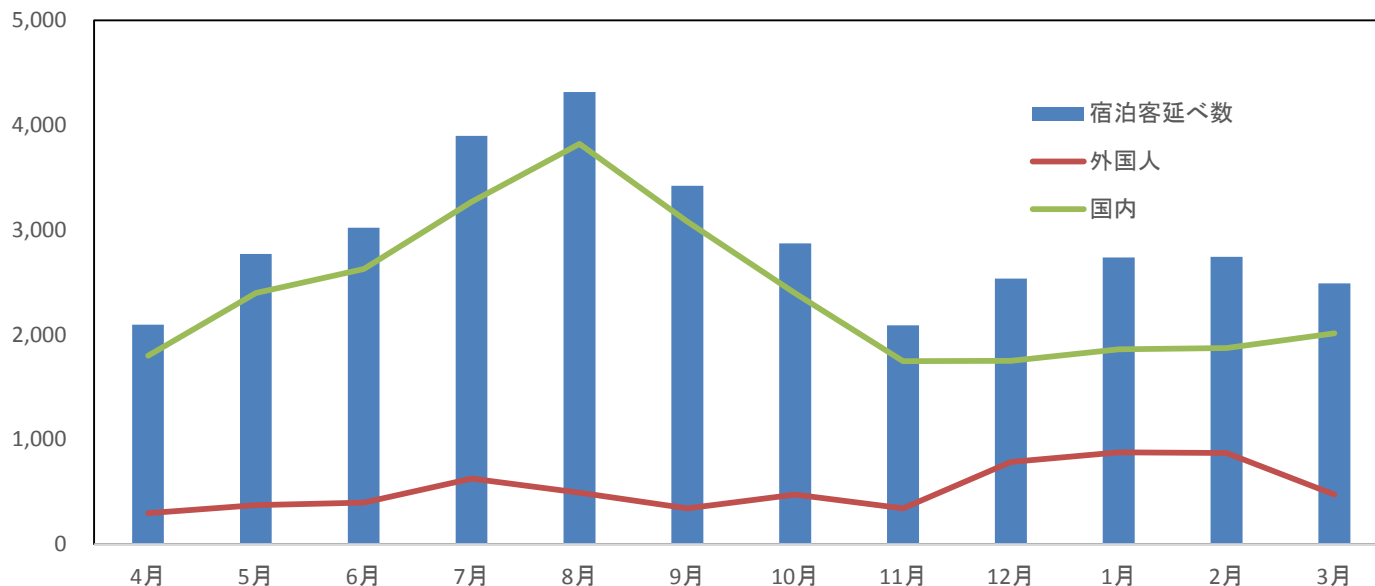
2 IR導入の効果②

② 季節格差の解消

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
国内客は夏季、インバウンド客は冬季に集中し、春季、秋季の観光客は低調	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 閑散期（春・秋季）の観光需要を底上げ ➤ 観光産業の通年安定化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 季節変動の少ないMICE施設や四季の魅力を生かしたエンターテインメント施設の整備などにより年間を通じた観光需要を創出

(千人泊)

H28(2016)年度 月別 宿泊客延べ数



宿泊客延べ数	2,095	2,770	3,022	3,896	4,315	3,421	2,871	2,088	2,535	2,737	2,744	2,489
外国人	297	373	396	627	493	341	475	341	786	876	872	475
国内	1,798	2,397	2,626	3,269	3,822	3,080	2,396	1,747	1,749	1,861	1,872	2,014

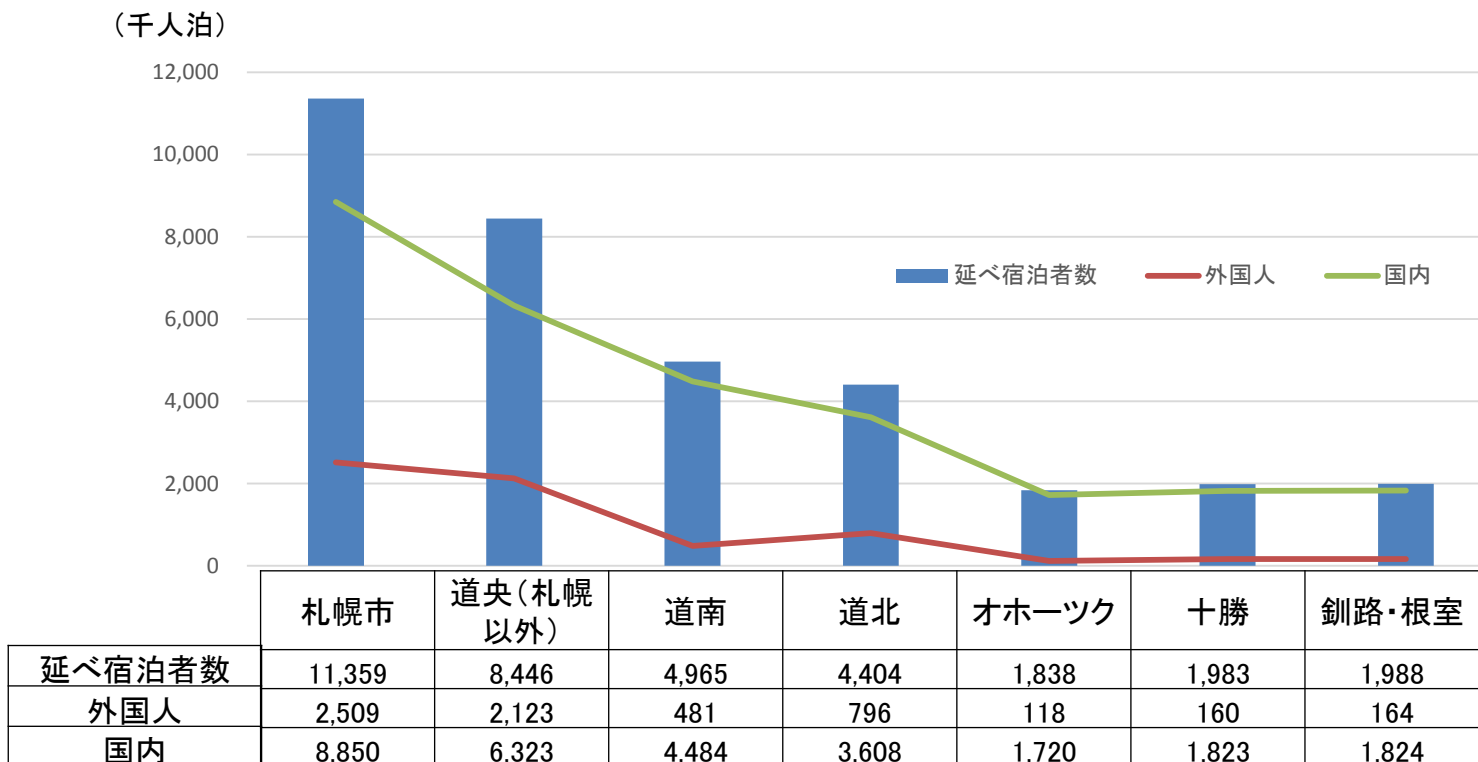
(北海道経済部 平成29年度北海道観光入込客数調査より)

2 IR導入の効果③

③ 地域偏在の解消

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
札幌を中心とした道央圏に観光需要が集中し、他地域との格差は拡大傾向	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 道央圏から他地域への送客（誘導）機能の拡充 ➤ 道内各地域における魅力ある観光地づくり 等 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ I Rを周遊観光の拠点として位置づけ、国内外から本道への集客と道内各地への送客を一体的に推進

H28(2016)年度 圏域別 宿泊客延べ数

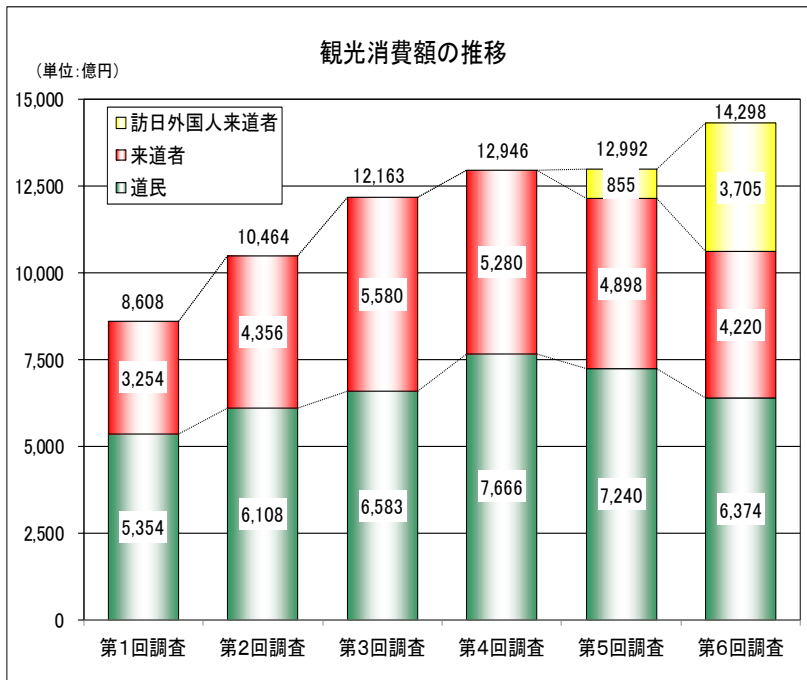


2 IR導入の効果④

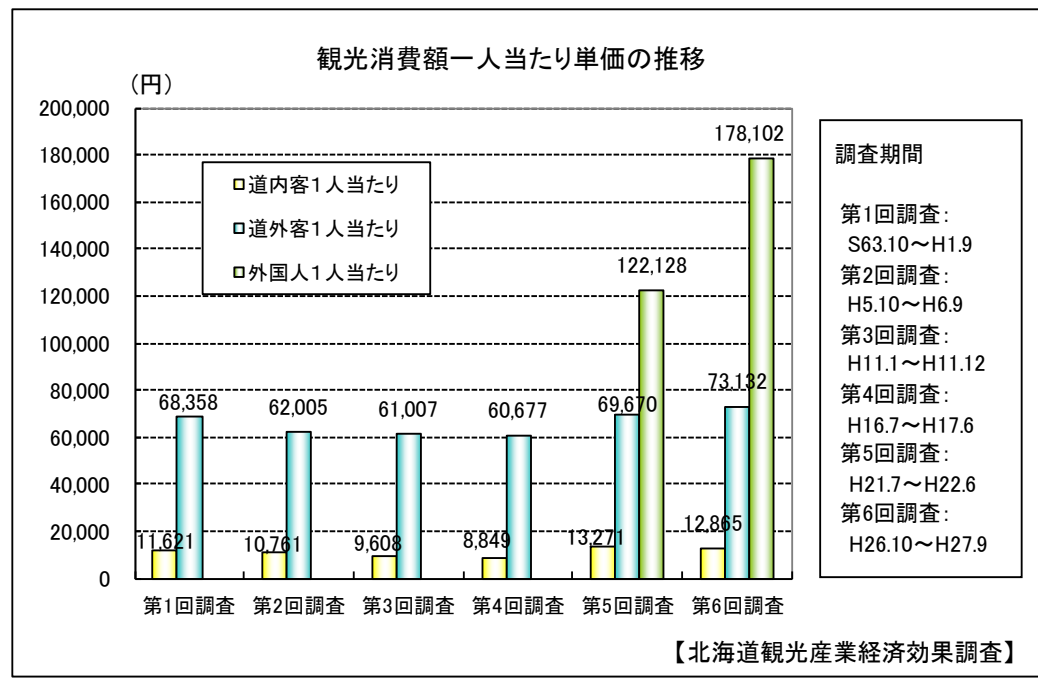
④ 観光消費額の拡大

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
消費額単価及び消費額共にインバウンドは堅調に増加する一方、国内客は横ばい状況	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 観光商品の付加価値向上や旅行日数の増加等による消費の拡大 ▶ 消費単価の高いインバウンドやビジネス層の誘客促進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 魅力あるIR施設の利用やIRを拠点とした滞在・周遊型観光の促進により、一人当たりの消費額を拡大 ▶ 国際会議の誘致等により、消費単価の高いインバウンドやビジネス層の来道を促進 等

※ 外国人来道者の観光消費額は、第5回調査(H22)より実施



(出典) 北海道経済部「北海道観光の現況」



(出典) 北海道経済部「北海道観光の現況」

2 IR導入の効果⑤

◆ 参考：シンガポールの例

IRの開業前後で見られるシンガポールにおける変化（公共政策として効果の発現）

- シンガポールでは、国際観光地としての魅力を取り戻すため、2005年にリー・シェンロン首相は、国策としてカジノを含むIRを誘致することを決断し、IRの中にMICE施設等の施設に加え、アイコンックな宿泊施設、エンターテインメント施設等魅力的な施設の整備を行ったこと等により、様々な指標に変化が見られる。
- IR開業（2010年）前後の5年間で、具体的には以下のような増加が見られるなど公共政策として効果が発現。
 - ・国際会議開催件数は23%増加していることに加え、外国人旅行消費額も86%増加
 - ・宿泊施設については、客室供給総数は30%増加する中で、稼働率は13%増加し、客室単価（富裕層向け）も36%（46%）増加

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	対2009年比
外国人旅行者数	968万人	1,164万人	1,317万人	1,450万人	1,557万人	1,510万人	156%
外国人旅行消費額※2	1.00兆円	1.49兆円	1.75兆円	1.82兆円	1.85兆円	1.86兆円	186%
外国人旅行消費額※2 (エンタメ関連)	158億円	3,160億円	4,245億円	4,127億円	4,308億円	4,586億円	2,897%
国際会議開催件数※1	689件	725件	919件	952件	994件	850件	123%
BTMICE目的訪問人数※3	261万人	338万人	356万人	406万人	405万人	377万人	144%
ホテル客室(総数)	1,134万室	1,162万室	1,267万室	1,275万室	1,339万室	1,470万室	130%
ホテル稼働率	75.8%	85.2%	86.0%	86.5%	86.3%	85.5%	113%
ホテル客室単価※2 (Luxury)	14,950円 (24,909円)	17,181円 (27,992円)	19,491円 (31,469円)	20,635円 (34,016円)	20,351円 (34,371円)	20,351円 (36,413円)	136% (146%)

※「Annual Report Tourism Statistics」、を基に事務局において作成 ※1：(出典)日本政府観光局(JNTO)国際会議統計2015(UIA国際会議統計より)

※2：「1\$ = 78.75円」で計算 ※3：「Annual Report Tourism Statistics」の訪星外国人旅行者数及び目的別訪問率を基に算出

特定複合観光施設区域整備推進会議(IR推進本部)資料より抜粋。

2 IR導入の効果⑥

・北海道経済へのインパクトはどの程度期待できるか。

◆ I R事業者から道への事業提案（R F C）（H 2 9）

【A社】

開業時投資額： 2,800～3,800億円
初年度売上高： 1,510億円
 ゲーミング： 680億円
 ハンゲーミング： 830億円

初年度訪問者数： 610万人
 (内訳) 外国人旅行者： 150万人
 国内旅行者： 310万人
 道内居住者： 150万人

【B社】

開業時投資額： 2,200億円
初年度売上高： 1,210億円
 ゲーミング： 847億円
 ハンゲーミング： 363億円

新規雇用者数： 9,500人
初年度訪問者数： 1,100万人
 (内訳) 外国人旅行者： 200万人
 道外旅行者： 259万人
 道内居住者： 98万人
 近隣居住者： 540万人

【C社】

開業時投資額： 1,935億円
初年度営業収益： 1,254億円
 ゲーミング： 940億円
 ハンゲーミング： 314億円

初年度訪問者数： 767万人
 (内訳) 外国人旅行者： 67万人
 道外旅行者： 363万人
 道内居住者： 50万人
 近隣居住者： 286万人

【D社】

開業時投資額： 2,537億円
初年度売上高： 1,253億円
 ゲーミング： 896億円
 ハンゲーミング： 357億円

新規雇用： 5,000～6,000人
訪問者数（開業3年目）： 1,708万人
 (内訳) 外国人旅行者： 612万人
 道外旅行者： 577万人
 道内居住者： 519万人

【E社】

開業時投資額： 1,205億円
初年度売上高： 888億円

新規直接雇用者数： 4,850人
初年度訪問者数： 339万人
 (内訳) 外国人旅行者： 54万人
 道外旅行者： 68万人
 道内居住者： 206万人
 その他VIP： 11万人

【F社】

開業時投資額： 1,700億円
初年度売上高： 608億円

雇用創出数： 2,000名程度
年間利用者数： 493万人

(※注) 【A社】～【E社】は苫小牧、【F】は留寿都

2 IR導入の効果⑦

◆ 道による需要予測結果(H29)

	釧路市	苫小牧市	留寿都村
I R訪問者数(千人)	3,356	8,685	4,738
うちゲーミング参加者数	1,338	4,148	2,232
I R売上高(億円)	504	1,562	840
うちゲーミング売上高(M a s s層)	234	726	391
うちゲーミング売上高(V I P層)	78	242	130
うちノンゲーミング売上高	192	594	320

【試算方法の概要】

(1) I R訪問者数

次の4つに分類し、それぞれの訪問者数を算出

・ IR訪問者数 = 基礎数値 × IR訪問率 × IR利用回数

①道内客(圏内客)	自動車1時間以内人口	20%(レジャー参加率平均)	年4回(レジャー参加回数平均)
②道内客(①以外)	道内人口-①	20%(同上)	年2回(1をもとに半分に設定)
③道外客	観光入込客数	20%(同上)	年1回
④インバウンド	インバウンド目標値	35%(海外IR事例)	年1回

(2) I R売上高

① ゲーミング売上高

Mass層とVIP層に区分、各売上高を算出

・ Mass売上高 = IR訪問者数×成人人口補正率×ゲーミング利用率(*1)×1人当たり売上高(*2)

(*1): 海外IR実績の参加比率69%をもとに 道内35%、道外・インバウンド70%に設定

(*2): 3,500円~7,000円(道内ギャンブル等年間平均消費額、海外IR実績)

・ VIP売上高 海外IR実績(ゲーミング売上の25%がVIP層)をもとに算出

② ノンゲーミング売上高

海外IR実績(IR売上高全体の約4割がノンゲーミング)をもとに算出

2 IR導入の効果⑧

◆ IR誘致に伴う税収効果

・需要予測調査(H29 道実施)をもとに、カジノ収益等に伴う納付金等の額を試算

	釧路市	苫小牧市	留寿都村
I R売上高 (億円)	504	1,562	840
うちゲーミング売上高 (億円) (a)	312	968	521
I R入場者数(千人)	3,356	8,685	4,738
うちインバウンドを除く ゲーミング参加者数(千人) (b)	1,114	2,977	1,694
(1) 納付金額(億円) (a)×15%	47	145	78
(2) 入場料額(億円) (b)×3,000円	33	89	51
計 (億円) (1)+(2)	80	234	129



相当額の安定財源確保により、継続的かつ計画的な公的支出が可能

<例 1 >
IRを核とした
北海道観光のプロモーションや
受入環境づくりの強化

<例 2 >
全道への送客機能を高めるた
めの二次交通（航空、鉄道、
バス等）の充実

<例 3 >
既存のギャンブルも含めた
総合的な依存症対策の推進

参
考

・納付金の用途(IR整備法第232条)

認定都道府県等は、納付金の額に相当する金額を、観光の振興に関する施策、地域経済の振興に関する施策その他の法の目的等を達成するための施策並びに社会福祉の増進及び文化芸術の振興に関する施策に必要な経費に充てるものとする

・入場料(IR整備法第176条)

日本人等の入場者に対し、入場料・認定都道府県等入場料として、それぞれ**3千円/回**（24時間単位）を賦課

・納付金(IR整備法第192条)

カジノ事業者に対し、国庫納付金（①カジノ行為粗収益（GGR）の15%及び②カジノ管理委員会経費負担額）、認定都道府県等納付金（GGRの**15%**）の納付を義務付け

2 IR導入の効果⑨

- ・ IR導入によるマイナスの効果（影響）はどのようなものがあるか。
- ・ 影響を最小化するためには何をすべきか

◆ IR導入による想定される影響と対応の方向性

項目	想定される影響	法による規制等	対応の方向性
ギャンブル依存症	・ギャンブル依存症の増加	<ul style="list-style-type: none"> ○入場規制等 入場規制 3回(7日)、10回(連続する28日) 入場料 6,000円 マイナンバーカード等による入場管理 ○金融業務の規制 日本人等への与信業務の制限(一定額の預託) クレジットカードによるチップ購入は外国人に限定 等 ○事業者による依存症対策の実施 本人、家族の申告による入場制限措置、 相談体制の整備 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャンブル等依存症対策基本法に基づく都道府県計画の策定（予防、相談、治療、支援体制の充実等） ・国、市町村、事業者等と連携した依存症対策の実施 等
犯罪増加や治安の悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・反社会的勢力のカジノ経営への参画 ・カジノ利用における不正行為 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○カジノ管理委員会による規制 免許制の採用、事業者等幅広い関係者を対象とした廉潔性の確保 等 ○マネーロンダリング対策 一定金額以上の取引の本人確認、カジノ管理委員会への届け出義務 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、市町村と連携した監視、監督体制の構築 ・事業者による厳格な運用のルール化、管理 等
青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年のカジノ行為 ・勤労意欲の低下 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○入場規制 20歳未満の入場禁止 ○広告規制 20歳未満へのビラ等の頒布や勧誘の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関と連携した教育プログラムの実施 ・事業者による厳格な運用のルール化、管理 等

本懇談会において回を改めて検討

2 IR導入の効果⑩

- 観光立国を目指す北海道にとって、また、我が国が目指す観光先進国の実現に向けて、IRはどのような効果が期待できるのか。

◆ 北海道観光のくにづくり行動計画

(平成30年度～平成32年度)【平成30年北海道】

項目	現状	目標 (2020年(H32))
観光入込客数 (実人数)	(H28) 5,466万人	6,000万人
うち道内観光客	4,642万人	4,880万人
うち道外観光客	594万人	620万人
うち外国人観光客	230万人	500万人
観光消費額		
道内客1人当たり	(H27) 12,865円	14,000円
道外客1人当たり	73,132円	76,000円
外国人1人当たり	178,102円	200,000円
観光総消費額	(H27) 1兆4,298億円	2兆1,544億円
うち道内観光客	6,374億円	6,832億円
うち道外観光客	4,220億円	4,712億円
うち外国人観光客	3,705億円	1兆円
宿泊客延数		
国内観光客	(H28) 2,863万人泊	3,000万人泊
外国人観光客	635万人泊	1,700万人泊
リピーターの割合		
道外客 (5回以上来道)	(H28) 45.3%	50%
外国人 (2回以上来道)	32.0%	34%

202X年

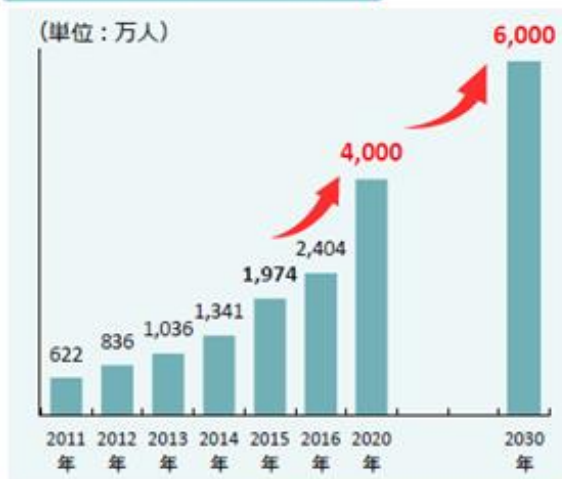
北海道型IRの整備

- 北海道観光の更なるレベルアップ
- 我が国が目指す観光先進国の実現に大きく貢献

2 IR導入の効果⑪

◆ 参考：観光先進国実現に向けた政府の目標

○ 訪日外国人旅行者数



○ 訪日外国人旅行消費額



○ 地方部での外国人延べ宿泊者数



○ 外国人リピーター数



○ 日本人国内旅行消費額



※明日の日本を支える観光ビジョン (2016年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定) より観光庁作成

3 IRに求められる機能・施設①

- IRの利用者はどのような客層が想定されるか
- 「期待される効果」を具現化するためには、顧客ターゲットをどのように設定すべきか

◆ IRの顧客ターゲット

季節変動の少ない
ビジネス客の取り込み

海外IR事例ではゲーミング
売上高の23～33%を占める

		道内入込観光客数		I R 整備後の主要ターゲット			
		H28入込客数	動向	顧客層	ハンゲーミング		ゲーミング
					MICE施設	その他(*1)	
インバウンド	230万人	・過去6年で4倍に急増 ・2010→2030年で 国際観光客到着数 倍増(9億→18億) (*2)	VIP(*3)		○	◎	
			ビジネス	◎	○	○	
			観光		◎	○	
国内	道外	594万人	・平成11年をピークに 横ばい ・人口減に伴うマーケット 縮小	ビジネス	◎	○	○
				観光		◎	○
	道内	4,642万人	・横ばい～微増 ・全国ペースを上回る 人口減が見込まれる	ビジネス	◎	○	○
				観光		◎	○

- *1 宿泊施設、観光の魅力の増進に資する施設等
- *2 国連世界観光機関の長期予測
- *3 ゲーミングにおいて高額を利用する富裕層等



3 IRに求められる機能・施設②

- 「北海道の強みや特性を活かす」、「他地域との差別化を図る」といった観点から、北海道型IRにはどのような視点が求められるか。

◆ 北海道の強みや特性



アジア随一の
ウィンター・リゾート

優れた自然環境、安全・安心な食、
人々を魅了する観光資源や
自然と共生するアイヌの人々の
歴史・文化等は、
世界に誇る「北海道価値」



明瞭な四季と
美しく雄大な風景



独自の歴史・文化
国際的価値を有する自然

国内外の観光客を
魅了して止まない
特別な観光地 北海道



豊かな自然に育まれた
安全・安心な食

3 IRに求められる機能・施設③

◆ 外国人観光客の指向

外国人観光客の旅行目的（平成28年度）

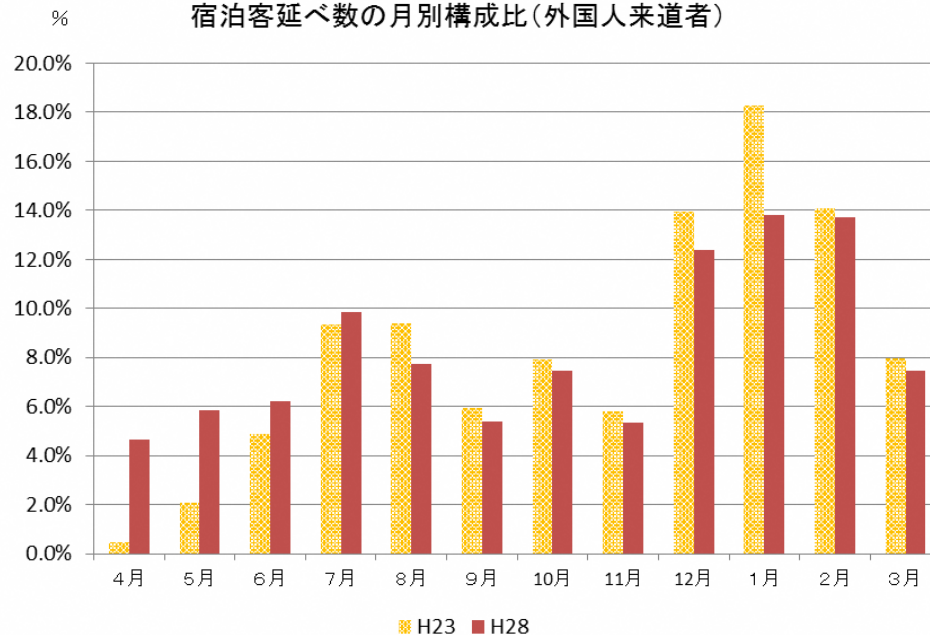
1	自然鑑賞	79.4%
2	都市観光	62.3%
3	温泉・保養	53.4%
4	特産品の買物・飲食	49.4%
5	ショッピング	40.1%
6	花の名所めぐり	26.0%
7	動物園・水族館	13.9%
8	道の駅めぐり	7.1%
9	スキー・スノーボード	6.7%
10	産業遺産・工場見学などの産業観光	4.6%

（出典）北海道経済部観光局
「北海道観光の現況2017」平成29年10月

外国人観光客の自然に対する
観光需要の高さ

- 豊かな自然環境を有する北海道の特性を活かした機能
- 北海道の積雪寒冷地な気候特性を活かした機能

宿泊客延べ数の月別構成比（外国人来道者）



（出典）北海道経済部観光局 「北海道観光のくにづくり行動計画」平成30年 3月

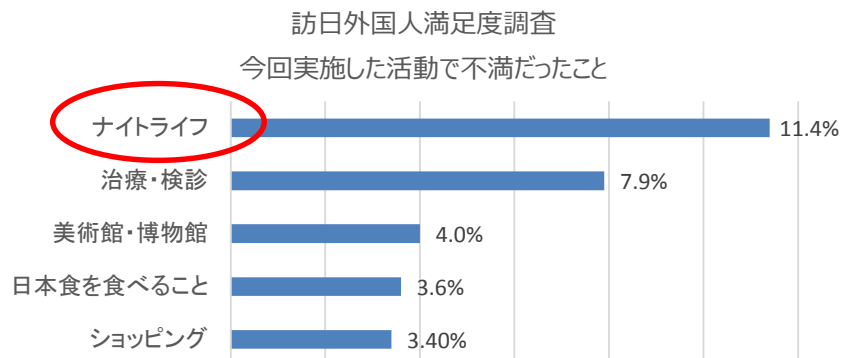
ウインターシーズンの方が外国人来道者数が多く、
冬季観光へのニーズが高い。

アジアの中で「他にはない」
IR実現の可能性

3 IRに求められる機能・施設④

◆ 外国人観光客のナイトライフ需要への対応

ナイトライフに不満を感じる訪日外国人



(出典) 観光庁「観光産業政策検討会」参考資料 H24

北海道でも同様の声が...

- ・ 酒類をあまり飲まないイスラム圏等からの観光客は食事だけで終わってしまう
- ・ 地元の名産を軽く食べ歩きできるようなナイトマーケットのようなものがない
- ・ 日本ならではの伝統芸能を見せるようなナイトエンターテインメントがない
- ・ ショッピング施設は多くあるが、概して閉店時間が早く、夜間までショッピングできる施設がない

※ 北海道経済部観光局
「新たなインバウンド誘致企画調査事業」ヒアリング調査

北海道ならではのナイトライフメニュー例

1. 赤れんがプロジェクションマッピング
2. 小樽雪明かりの道
3. 阿寒フォレスト・ルミナ (予定)
夜の森を歩く体験型テーマパーク



(札幌市・道庁赤れんが庁舎)

(小樽市・小樽運河)

北海道型 I R に求められるナイトエンターテインメント機能

- 地域色 (北海道らしさ)
- +
- スケール
- 娯楽性

IRにおけるナイトエンターテインメントの実践例



ミュージカル



伝統芸能



噴水ライブショー



スポーツイベント

3 IRに求められる機能・施設⑤

◆ 地域の独自性や地域資源を活用したIRの事例

サンシティ・リゾート（南アフリカ）

ピラネスバーグ国立公園に隣接し、サファリパークとして様々な野生の動物が見られるアクティビティが可能。



出典：Sun International(<https://www.suninternational.com/sun-city/>)のHP

ゲンティン・ハイランド（マレーシア）

クアラルンプールから1時間以内の場所に位置しながら、高原にあるため冷涼な気候。近郊にあるマレーシア最大のイチゴ農場で、イチゴ狩りが体験可能。



出典：Genting Highlands(<https://www.rwgenting.com/>)、クアラルンプール(<http://www.kuala-lumpur.ws/>)のHP

クアハウス（ドイツ）

有名な温泉地バーデンバーデンに立地する、コンサートホールやカジノを備えた複合施設。街中の温泉保養施設、宿泊施設などと合わせて、街全体として統合型リゾートとしての機能を提供。



出典：Baden Baden(<https://visit.baden-baden.de/en/>)のHP

ハラーズ レイク タホ（アメリカ・ネバダ州）

カリフォルニア州とネバダ州の州境にあるタホ湖はパウダースノーで知られた世界的に有名なスキーリゾートエリア。夏は湖を生かしたアクティビティも体験可能。



出典：CAESARS(<https://www.caesars.com/>)のHP

3 IRに求められる機能・施設⑥

- ・ IR事業者が想定しているIRの機能や施設はどのようなものか。

◆ IR事業者からの提案内容

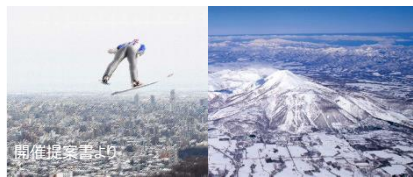
カジノ以外の施設	A社	B社	その他（主なもの）
MICE施設 （国際会議場、 展示施設など）	・会議室、宴会場、多目的アリーナ、 展示空間 等	・会議室、宴会場、展示ホール、屋 外会場 等	・会議場（12,000㎡） ・展示場（14,000㎡） ・多目的アリーナ（10,000席、2,400㎡ の展示スペース） 等
魅力増進施設 （エンターテイン メント施設など）	・自然を体験できる屋内外施設 ・複数のシアター・パフォーマンス空間 ・北海道製品のショッピング、レストラン ・温泉施設 ・夜のライブ・エンタメ施設 等	・ミュージアム ・ライブ会場 （日本の伝統芸能含む） ・ショッピング、レストラン ・散策道 ・日本庭園 等	・屋外アトラクション（世界規模のハイキ ングコース、自転車道、ジップライン） ・シネマコンプレックス&IMAX ・スポーツ施設（スケートリンク、ゴルフ練 習コース、ラグビー場、野球場など） ・サファリパーク 等
送客機能施設 （ゲートウェイ機能）	・道内観光の疑似体験ができるバス ・IRを宿泊地として日帰り旅行を奨励 （シャトルバス・レンタカー） ・数日間の周遊旅行の奨励 （IR発着のツアーの提供） ・季節に応じたツアーパッケージの提供 （スキー、乗馬、ゴルフなど）	・3D技術を活用した観光ツアーを 周遊観光体験 ・旅行会社と提携した周遊商品開 発	・観光客向けインフォメーションデスク ・観光地域へのシャトルバスの運行 ・特定地域のアトラクションへのパッケージ ツアー ・ローカルのアクティビティ(乗馬体験など) との事業提携
宿泊施設 （ホテル等）	・ホテル（5つ星）：1,775室 ・ホテル（4つ星）：1,350室 ・その他の宿泊施設 4棟 計775室	・MASSからVIPまで幅広い客層を 対象としたホテル ・若者世代向けホテル ・VIP向け5つ星ホテル ・スパビレッジ	・ホテル2棟（4つ星、5つ星） （一般952室、プレミアム400室、ジュ ニアスイート160室、フルスイート80室、 プレミアムスイート9室 計1,600室） 等
その他	・火山・カルデラの景観を表現した 施設デザイン	・スタジアム ・芸術教育学校 ・巨大太陽光発電所 等	・自動運転、施設内の案内自動化 ・ヒューマノイドロボット導入

3 IRに求められる機能・施設⑦

・ IR導入効果を北海道全体に波及させるためには、どのような機能や施設が求められるか。

◆ 道内における今後の主要プロジェクトとの連携

○ 北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致 (2026年 or 2030年)



○ 日本ハムファイターズボールパーク構想 (2023年頃)



○ 広域周遊観光ルート (2015年、16年に認定済)

日本のてっぺん。きた北海道ルート。

アジアの宝悠久の自然美への道ひがし北・海・道



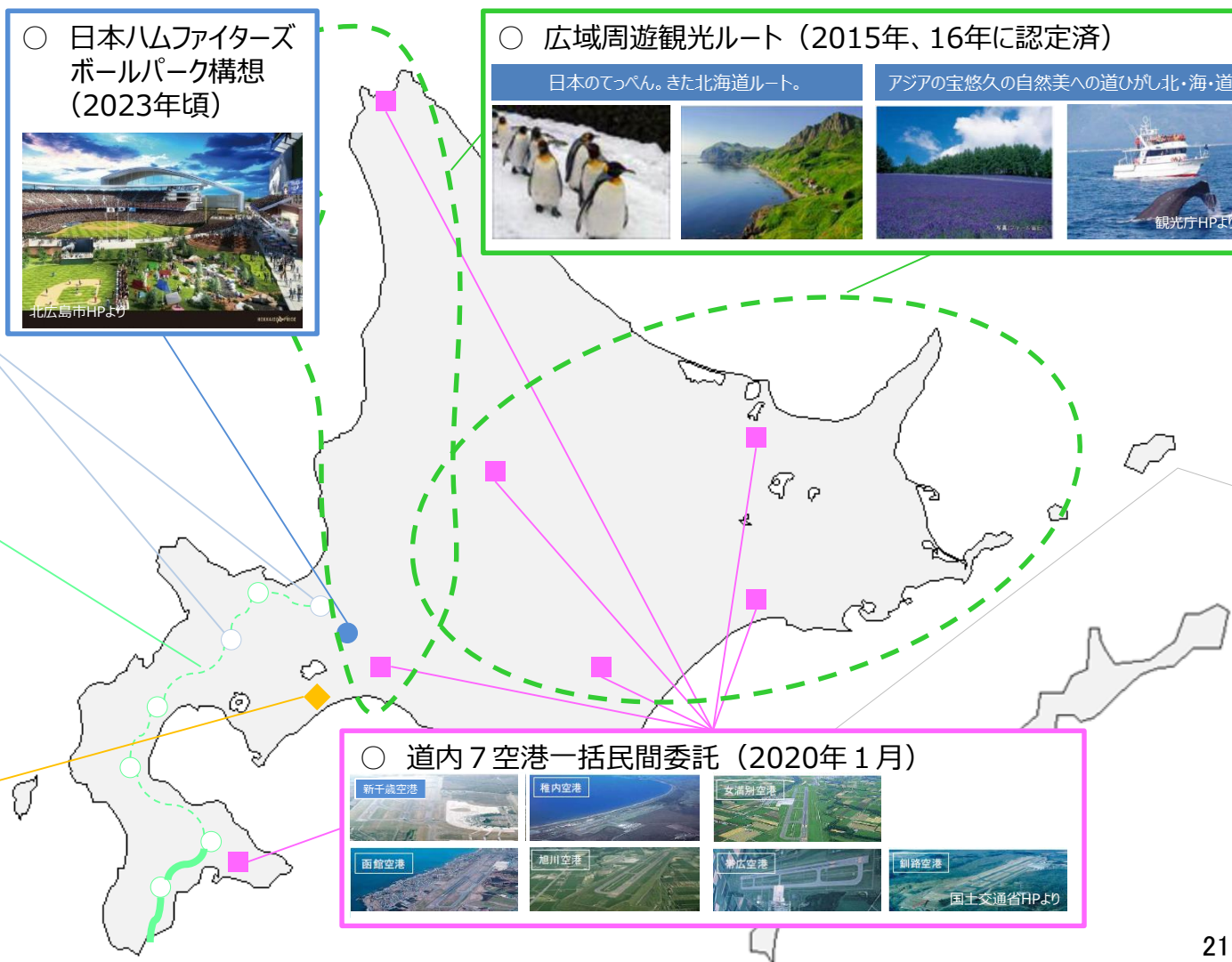
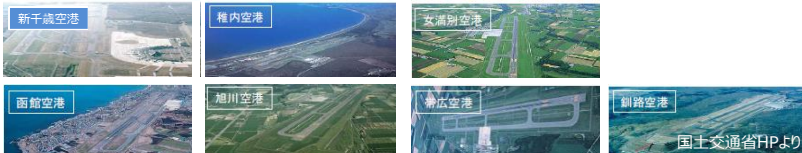
○ 北海道新幹線札幌延伸 (2030年度末まで)



○ 民族共生象徴空間 (2020年4月)

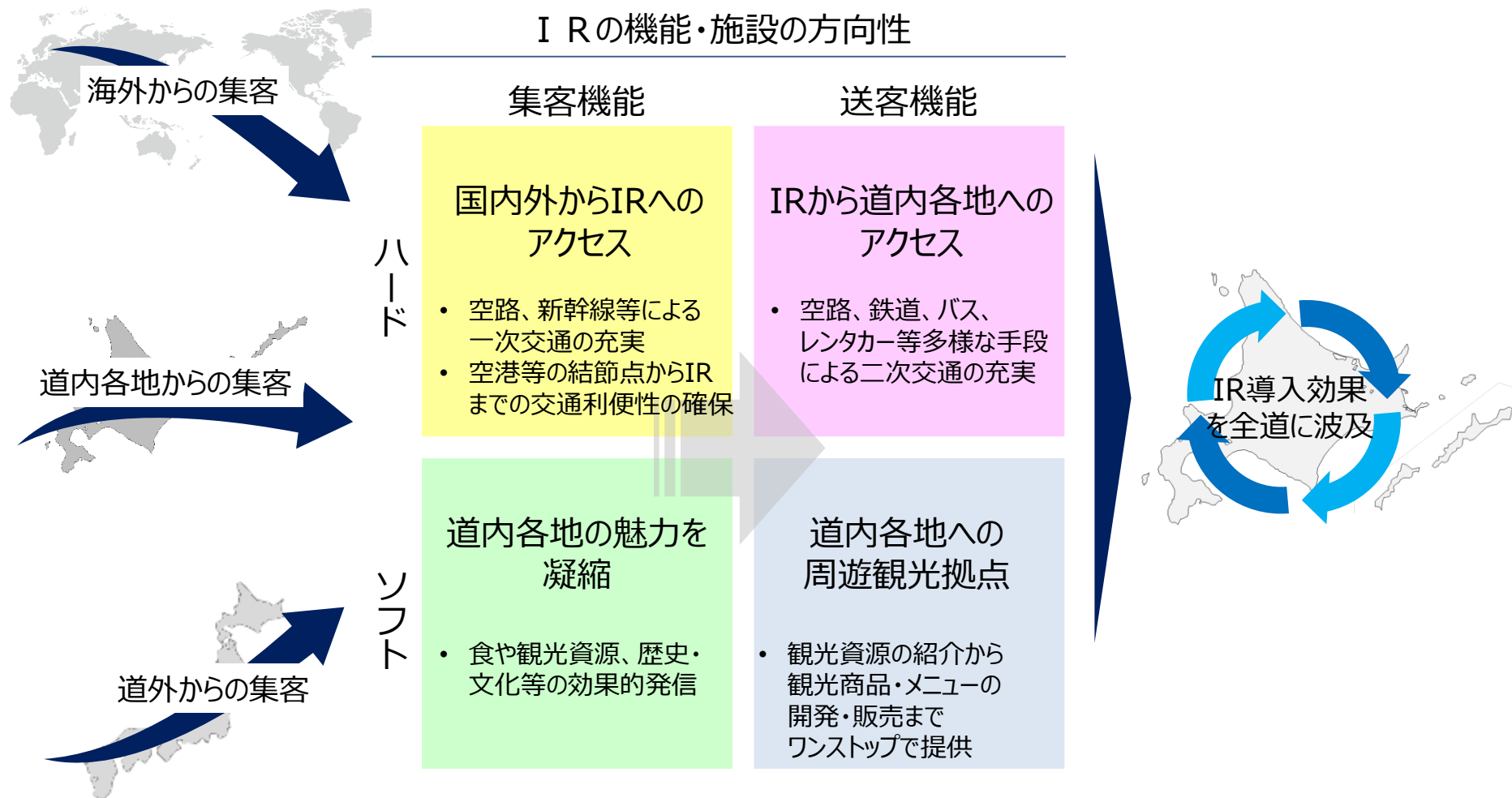


○ 道内7空港一括民間委託 (2020年1月)



3 IRに求められる機能・施設⑧

◆ 全道に効果を波及させるためのハード面、ソフト面からのアプローチ



3 IRに求められる機能・施設⑨

・北海道に相応しいIRの機能・施設とはどのようなものか

◆ 日本型IRで想定される施設・機能及び北海道型IRに求められる機能・施設

国における想定

国際競争力の高い滞在型観光を実現する日本を代表する施設

- ① 世界で勝ち抜くMICEビジネスの確立
- ② 滞在型観光モデルの確立
- ③ 世界に向けた日本の魅力発信

北海道型IR

【強みを活かした北海道ならではの施設・機能の整備】

- ・ アジア随一のウインター・リゾート
- ・ 明瞭な四季と美しく雄大な風景
- ・ 独自の歴史・文化、国際的価値を有する自然
- ・ 豊かな自然に育まれた安全・安心な食

+

【IRを訪れた観光客を道内全体に送客する機能】

+

【日本を代表する規模、施設】

国内外からの誘客推進
満足度の高い滞在型観光の提供

対象施設	想定されている機能
国際会議場	MICE誘致戦略の核となる機能
展示施設	例：アジア最大級のMICE施設
観光魅力の増進施設	多様なエンターテイメントやアクティビティの提供 例：一流のエンターテイメントの提供、VRを活用した文化情報発信
情報発信、サービス提供施設	日本・北海道の旅のゲートウェイ機能 例：コンシェルジュ機能をワンストップで提供
宿泊施設	高度化・多様化した観光客のニーズに対応できる機能 例：日本最大級、最高水準の宿泊施設
その他	国内外からの観光客の来訪・滞在の促進に寄与する施設 例：レストラン、ショッピングモール等
カジノ施設	